

様々な疑問や興味をも
とに、子どもはもとより
教員、大人も巻き込む幅
広い学習を追究したい
と、ICTの双方向性を
生かした独自のデジタル
教材開発を進めているの
が、玉川大学術研究所
社会科教育研究グループ
(東京・町田市)の多賀
譲治玉川学園マルチメ
ディア・リソースセン
ター遠隔教育推進室研究
員。

現在、同研究所のサイ
ト (http://www.tanaka
ya.ac.jp/setsu/knowledge/
materials/materials.
html) 上で歴史教材
「鎌倉時代の学習」(編
文人のくらし)や、総合
学習教材「お米の学習」
などを公開している。イ
ンターネットを介して学
習者の様々な質問に多賀
さんが回答し、多面的な
授業の実現や教室を超え
た共同学習、障害児の学
習参加などにも生かされ
ている。

教材開発では、子ども
たちの自学能力や多角的
な視野を育てることを目
的に、教員としてのICT
の可能性に着目。ネッ
トによる学習への質問、
回答の仕組み、さらには



「お米の学
習」サイ
ト……
え、あらゆ
る学年、世
代間との学
習機会など
が生み出さ
れ、立体的
視野の新た
な学習スタ
イルをも実
現してい
る。

意見集約の場を作るこ
とで一人ひとりの子ども
たちの興味・関心を汲み取
りながら、その思いが生
き、発展する「学習の
場」づくりのための教材
として運用を進めてい
る。

また教室の様や教科書
による一面的な学びを越

ICTの双方向性を生かす 多角的な視野を育てていく

多賀 譲治

玉川学園マルチメディア・リソ
ースセンター 遠隔教育推進室研究員



そんな教材づくりが始
まったのは、平成8年か
ら。ICTの教育利用が
模索され始めて間もない
頃でもあり、当初は従来
の紙教材をデジタル化し
ただけだったが、徐々に
「お米」の特性を生かす教
材コンセプトや内容の改
善を進めていった。

試行錯誤の末に出来た
のが総合学習教材「お米
の学習」。日本の生活と
文化に関係が深い米を
テーマに「ゲンボー」先
生(こと多賀さん)が、
ネット上で子どもたちの
あらゆる問いに答えるも
の。数多く設定した項目
から、総合的な学習のク
ロスカリキュラムづくり
のヒントを得てほしいと
いう思いも込められてい
る。

ある学校の総合的な学
習では「米作り」と「菓
子の利用」を絡めた授業に
同コンテンツを活用。教
室のプロジェクタで教材
を投影しながら「菓で相
撲のまわしはどう作る
の」など、子どもたちの
素朴な質問への回答を通

じて、学習での新たな発
想の育成や共同授業の実
施などにつなじている。

……

歴史教材「鎌倉時代の
学習」は、小学校から高
校までの連続性と学年を
超えた共同学習を意識し
て作られたもの。鎌倉時
代を取り上げたのは、朝
廷支配からの脱却という
日本史上で大きな変革期
であったことや、学習の
焦点化がしやすい時代
だったことも理由。

教材では、鎌倉時代の
「お金」「経済」「農物」
「食べ物」などの項目を
はじめ、多賀さんの研究
による「御成敗式目」の
現代語訳などから、鎌倉
時代の新たな視点があ
らゆる問いに答えるも
の。また教材と同様に、子
どもたちの質問とその回
答を通じて学習の深化が
図られるようになっている。
同教材による授業で
は、養護学校の子ども
もネット上で学習に参
加。バリアフリーな学習とし
ての可能性も追求して
いる。

多賀さんは「ICTは
あくまでも学習の道具。
良い授業に向けてあら
ゆる方策を探りたい。多
くの質問が蓄積されるこ
とで教材の質も高まっ
ていく。学校単位で質問し
てくることもあり、先生
たちもあらゆる問いを考
える中で指導力が磨かれ
ているようだ」などと成
果を語る。

同研究所社会科教育研
究グループ/TEL042
(739) 8666。